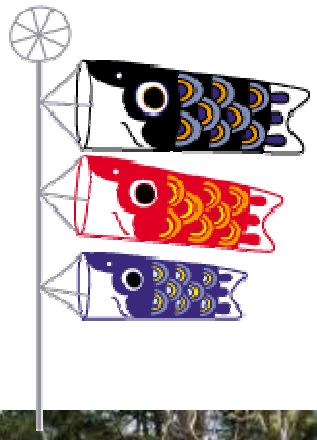
宮城民医連
東日本大震災

災害復興ニュース

ニュース　=第40号=
発行日　2011年5月6日
発行　宮城民医連



地域の復興にむけて、仮設住宅の入居が始まる

G.W の真っただ中の「子どもの日」、子どもたちの明るく元気な声や復興に向けた建築の金槌の音が、あちらこちらから聞こえてきました。宮城県七ヶ浜町では高台にある中学校のグラウンド、公民館前の空き地などに仮設住宅を建設し、5 月 8 日から第 1 期の入居が始まります。七ヶ浜町では宮城県に対して 500 戸の建設を要請しています。

菅直人首相は、仮設住宅の入居について「遅くともお盆の頃までに、希望者すべてに入っていただけるよう全力を挙げて努力する」と述べた。宮城県の場合、村井嘉浩宮城県知事は、5 月 1 日、被災者が暮らす仮設住宅について「3 万戸は必要になる」との見通しを明らかにした。しかし、同日第 2 次着工分 1195 戸の建設を発表したが、第 1 次着工分とあわせても 2402 戸にとどまり、必要戸数の確保には 1 年以上かかる見通しだ。

1 日現在、県内の避難者数は約 7 万人で減少傾向にはあるものの、ダンボールで仕切られ（それすらない避難所も）プライバシーは守られず、環境の悪化による健康被害も心配されている。1 日も早い仮設住宅または借りあげアパートへの入居が望まれています。

鯉のぼりのロープを協力して引っ張る子どもたち。七ヶ浜町国際村の避難所で。同避難所の医療班として、高知県立病院が入っていた。（5 月 5 日）

運動場では写真等の閲覧が

無料のフリーマッケト

仮設住宅（上建設途中、下完成真近　七ヶ浜町）

大山副会長マッサージも！

5 月 3 日、全日本民医連副会長の大山美宏医師は、多賀城体育館で 4 日目の診察をしていました。診察の合間には、フットケアチームと一緒に被災者の肩のマッサージ。おにぎりやパン中心の食事で野菜不足が心配と話していました。

多賀城体育館に入浴の設備はなく、バスなどを利用して出かけるしかありません。民医連の支援者が入浴の介助をして喜ばれたとの報告がありましたが、まだ震災後入浴できていない人はたくさんいます。

夢は広島の地を訪れる事

5 月 3 日、個人でできるボランティアとして、避難所で知り合いになった足の悪い方と松島の「大観荘」へ行きました。震災後 53 日間、お風呂には入れていませんでした。

その方（76 歳）の話では、避難所に来る時は車椅子だったが、沖縄の民医連の先生に診てもらい杖で歩けるようになり大変感謝しているとのことでした。また、避難所では名前を覚えてくれていて大変うれしいとも。これからの夢は、学生時代に恩師から聞かされた広島の原爆の惨状、その広島の地に旅行したいとの事でした。

ちなみに大観荘の入浴料は 300 円でした。支援者のみなさんも帰りに時間がありましたら景勝地・松島のお風呂を楽しんで下さい。開放的な露天風呂はお勧めです。

（日帰り入浴 8：00～16：00、
月・水・金は 15：00 まで）